

# Passport

2021 AUTUMN Vol.46

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。

## 第4次佐賀市男女共同参画計画

一人ひとりが輝く  
ダイバーシティ社会の実現へ

～性別や国籍、年齢、障がいなどに関わりなく、  
多様な人が個性や能力を発揮できる社会をめざして～



第4次  
佐賀市男女共同  
参画計画できました!

大注目!  
女性自治会長に  
インタビュー



講師

やまぐち かおり  
山口 香さん

スポーツから、  
学ぼう!



柔道漫画  
「YAWARA」  
主人公のモデル

令和2年度  
男女共同参画週間  
記念フォーラム

家事・育児に  
積極的なパパを  
続々紹介!



## CONTENTS

- ・第4次佐賀市男女共同参画計画ができました! P1～2
- ・女性自治会長インタビュー P3
- ・女性人材リスト登録者インタビュー P4
- ・男性の家事・育児キャンペーンイクメン紹介 P5
- ・令和2年度男女共同参画週間記念フォーラム報告 P6
- ・SDGs(ジェンダー平等) P7

# 第4次佐賀市男女共同参画計画 ～一人ひとりが輝く

性別や国籍、年齢、障がいなどに関わりなく、

## 計画の基本理念

- (1)男女の人権の尊重
- (2)生涯にわたる心身の健康
- (3)家庭生活における活動と他の活動の両立
- (4)社会における制度又は慣行についての配慮
- (5)政策等の立案及び決定への共同参画
- (6)国際的協調
- (7)ドメスティック・バイオレンス(DV)の根絶



男女共同参画社会の実現のためにそれぞれの責務を果たしましょう!

**自治組織等は…**  
地域活動等を行う際は、  
基本理念にのっとった取  
り組みを行いましょ。

**市民は…**  
家庭や職場等において  
男女共同参画の推進に  
努めましょ。

- 事業者は…**
- ・男女が対等に参画できるよう配慮ましょ。
  - ・仕事と家庭の両立ができるよう配慮ましょ。

- 市は…**
- ・総合的、計画的に施策を実施ましょ。
  - ・推進にあたり、子どもを含む市民の意見を尊重ましょ。

**教育に携わる者は…**  
基本理念にのっとった教育  
を行うよう努めましょ。

## 重点的に推進すべき取り組み

- (1)防災・政治分野における女性活躍の推進
- (2)家庭における男女共同参画の推進
- (3)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進



## ダイバーシティ社会の実現へ～

(2021年度から2025年度まで)

## 多様な人が個性や能力を発揮できる社会をめざして

5つの基本方向、16の重点目標、148の事業により計画を推進するものとし、基本方向ごとに成果目標を設定しました。

	成果目標(抜粋)	基準値(R1)	目標値
基本方向Ⅰ 人権の尊重と男女共同参画の意識づくり	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について反対する人の割合	70.3%	75.3% (R6)
基本方向Ⅱ 男女がお互いを認め合う社会づくり	「男のくせに根性がない」「女には仕事を任せられない」など差別的な言葉を言われたことがない人の割合	62.6%	80.0% (R6)
基本方向Ⅲ あらゆる分野への男女共同参画を促す社会づくり	男性の1日の家事関連時間「30分未満、全くしていない」人の割合	48.9%	45.2% (R7)
基本方向Ⅳ 男女が共に働きやすい環境づくり	庁内の女性管理・監督職の登用率	15.1%	25.0% (R7)
基本方向Ⅴ ドメスティック・バイオレンス(DV)のない社会づくり	DV被害を受けた際に「我慢した」人の割合	18.8%	13.8% (R6)

## 新たに取り組む事業の一部を紹介します

- ・学校において性の多様性に配慮した環境整備を図る。
- ・講演会や研修会等を開催し、政治分野への関心を促す。
- ・市内の企業・事業所に向けて「まなざし休暇」の取得を働きかけ、子育てしやすい職場の環境づくりを促進する。
- ・DV対応と児童虐待対応の連携を強化する。 など

詳しくはこちら  
(佐賀市HP)





## 女性自治会長インタビュー

全国の自治会長の女性の割合は5.9%※1、佐賀市においては662人中17人(2.6%)※2とさらに低い状況です。そんな中、地域のためにイキイキと活躍されている女性の自治会長のお二人に、自治会長になられたきっかけや、やりがいについて、インタビューしました。

※1 令和元年度内閣府調べ ※2 令和3年度佐賀市調べ

### 好きな言葉は“ランチーム”

県営城西団地自治会長 井手淳子さん(西与賀校区)



#### ◆自治会長になられたきっかけは？

以前は高齢化で町の行事にほとんど参加しない地域でした。「陸の孤島状態から何とか脱却したい!」という強い思いで自治会長に手を挙げました。

#### ◆自治会長になってから気づいたことがありますか？

生活全般に関わるので、多くの方の協力が不可欠です。会長としてやるべきことを頑張っていると、周りに協力してくれる人が増えました。例えば、花壇にそっと誰かが水やりをしてくれたり。

#### ◆どんな地域になってほしいですか？

男性とか女性とか関係なく、お互いの顔がわかることは大切です。「ここを助けて」と声をあげると、さりげなく誰かが助けてくれるような地域でありたいと思います。

#### ◆女性自治会長が増えていくためには？

女性が増えることで、今までと違う視点や気づきもでてくると思います。女性の自治会長がもっと増えてほしいです。そのためには、パートナーや家族の理解と協力が不可欠ですね。

#### 地域紹介(西与賀校区)

人口は約5,600人、世帯数約2,000世帯の町です。昔は、漁業が盛んで、今も蒲鉾業者や海苔業者が集まっています。

**感想：**テンポのある明るい語り口と、スポーツで鍛えた「ぶれない覚悟」が垣間見え、あっという間に予定時間が過ぎる爽やかなインタビューになりました。 編集委員 友安賀代子

### 地域の方々にエネルギーをもらっています

辻自治会長 西村文子さん(高木瀬校区)



#### ◆自治会長になられたきっかけは？

前の自治会長が病気になられて、公民館や自治会の庶務会計をしていた自分に白羽の矢が立ち、即「できるよ。」と返事をしたのがきっかけです。毎月1回の自治会便りの発行や辻地区独自の防災訓練など、多彩な行事を行っています。

#### ◆自治会長になられて変わったことはありますか？

皆さんから相談しやすくなったと言われます。食事の事など小さい相談まで受けますし、気になる方には自分からも電話します。私自身は明るくなったと思います。年を重ね

たら、今日用は(教養は)、今日行くところは(教育は)、と考え、用事を作って出かけるようにしています。サロンの回数を増やし、「100歳まで元気に」を合言葉に、楽しく集まっています。

#### ◆自治会長になってよかったこと

皆さんに頼ってもらえること、慕ってもらえることがよかったかなと思います。人と会うことでエネルギーをもらっています。

#### ◆やってみようか悩んでいる人にアドバイスを

「やりがいがあるよ」と言いたいです!

#### 地域紹介(高木瀬校区)

昭和35年以降、佐賀市周辺部の都市化が進み、北部バイパス建設などで人口が増えました。人口約14,000人、約6,200世帯となっています。

**感想：**「人間大好き」の気持ちが伝わるインタビューになりました。「私、できるよ」とちゅうちょなく言える人間力の大きさに、元気をもらって帰りました。 編集委員 矢ヶ部ひとみ

# 女性人材リスト登録者募集

女性人材リストとは、専門知識・専門技術等をもつ方や各分野で活躍される女性を登録したものです。市役所の各課が所管している審議会等の委員を選任する際に、各課へ委員候補者として推薦するほか、庁内外からの講座の講師紹介の依頼があった場合にこのリストから紹介します。

## 女性人材リスト登録者の声

「佐賀市水対策市民会議」では、佐賀市の水や自然環境の保全について話し合っています。今まで市内を流れる水のことなど、あまり考えたことがありませんでしたが、委員になってからはクリークなど観察するようになりました。

最初は知らないことばかりで戸惑いましたが、専門家の方々のご意見や、若い方々の新しいアイデアなど、いろいろな考えを知ることができて、私自身にとってとても良い経験になっています。

大坪真由美さん  
佐賀市水対策市民会議委員



どの会議でも私たちの生活に深くかかわる大事なことを話し合いますが、男性委員ばかりで、女性は2~3人と少ないのが残念です。子育ての経験をふまえて、大変だったことや困ったことを伝えることで、佐賀市がもっと子育てしやすい街になるといいなと思っています。審議会や会議の委員という敷居が高いかもしれませんが、市で今どんなことが起きているのか、また、どういう計画で進んでいるのかを知ることができるので、おすすめです。

山口美恵さん  
佐賀市子ども・子育て会議委員  
佐賀市中央大通り再生会議委員

### ■対象

市内在住の女性

- ①一般の部…市政に関心を持ち、審議会等委員として活動ができる人
- ②専門の部…審議会等委員のほか、講師として活動できる人

### ■登録分野

まちづくり・地域活動・団体活動、子育て・家庭・教育、福祉全般、保健・医療、くらし・環境、政治・法律、都市計画・防災、経済・産業・科学、農林水産、文化・芸能・歴史、スポーツ・レクリエーションなど

### ■登録方法

「佐賀市女性人材リスト登録票」に必要事項を記入の上、人権・同和政策・男女参画課に本人持参でご提出ください。

※登録した人が必ず委員や講師として選定されるものではありません。

登録票は、人権・同和政策・男女参画課に置いているほか、市ホームページからもダウンロードできます。



男性の家事・育児参画啓発キャンペーン

# 家族はチームだ!

みんなでやろう家事・育児

佐賀県の男性の家事関連時間は37分<sup>(※1)</sup>で、全国46位と少なく、家事や育児の負担が女性に偏っているのが現状です。男性にもっと家事・育児にかかわってほしいと願いを込めて、現在、家事や育児に積極的に取り組んでいるパパの姿をシリーズで紹介していきます。

※1「社会生活基本調査」  
(H28・総務省)

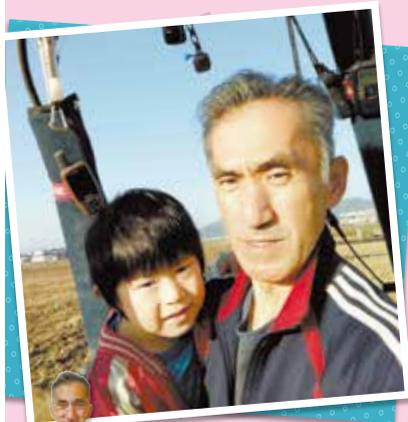
市HPでイクメン  
続々紹介中!



野中 瑞貴さん(30歳)

勤務先>株式会社 有明電設  
家族構成>パパ+ママ+娘(7カ月)  
得意な家事>掃除・ゴミ捨て・娘の世話

**妻の負担を軽くしたい  
娘の笑顔が元気の源**  
以前は仕事が終わって帰宅後すぐ「コロコロしていました(笑)妊娠して体がきつそうな妻を見て「やらなきゃ!」と思いました。仕事と家事・育児で毎日があっという間ですが、娘の笑顔を見たら疲れも吹き飛びます。



小川 英昭さん(51歳)

勤務先>西日本総合コンサルタント株式会社  
家族構成>パパ+ママ+息子(4歳)  
得意な家事>洗濯・掃除・整理整頓

**時間と心にゆとりを持って  
子どもと一緒に親も成長**  
子育ては「不測の事態」の連続。だから家事は出来るだけ前倒しで終わらせ、時間の余裕をつくるようになりました。そうすれば心にもゆとりができて、ストレスも軽くなる。子どもと一緒に親も成長していくのですね。



小道 雄樹さん(33歳)

勤務先>株式会社佐賀銀行  
家族構成>パパ+ママ+娘(2歳)  
得意な家事>料理

**子ども中心の生活だからこそ  
自分の楽しみを見出そう**  
私の主な担当は、料理です。家事をやらなきゃ、というより、まず私自身がおいしいものを食べたくて作るので、まったく苦にはなりません。「子どものため」と気負い過ぎず、「自分が楽しむことが大事なのかもしれないね。」



彌永 宏一郎さん(47歳)

勤務先>NBCラジオ佐賀  
家族構成>パパ+ママ+娘3人(4歳・3つ子)  
得意な家事>オムツ替え・お風呂入れ

**経験したからこそその実感  
家事育児からの学びは貴重!**  
子どもが生まれ(しかも三つ子!)、私も家事をせざるを得なくなりましたが、正直最初は気乗りしませんでした(笑)でも経験すると得るものがありますね。家事の進め方から仕事のヒントを見つけたら、毎日が学びだと実感しています。



岩間 透さん(34歳)

勤務先>三井住友信託銀行  
家族構成>パパ+ママ+息子(3歳)  
得意な家事>息子の送迎・掃除・ごみ出し

**育児のおかげで  
私の世界が広がりました**  
転勤で地元を離れ、人付き合いは会社内だけだった私。育児をするようになってからは、パパ友・ママ友とのつながりができました。子どものおかげで、親の世界も広がっていくものですね。

## 男女共同参画推進協賛事業所 募集中!

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。男女共同参画推進協賛事業所への登録をお待ちしています!

担当: 佐賀市人権・同和政策・男女参画課  
電話: 0952-40-7014  
FAX: 0952-34-4549

▶ 申込用紙は佐賀市ホームページからもダウンロードできます。  
詳しくは、佐賀市HPをご覧ください。

<https://www.city.saga.lg.jp/main/3196.html>



○今回紹介した皆さんは、佐賀市男女共同参画推進協賛事業所から推薦していただきました(年齢は取材当時)。

令和2年度 男女共同参画週間記念フォーラム

令和3年2月11日  
会場 アバンセ

オリンピックの見方が変わる!

## なりたい自分になる生き方

## 第1部 講演

演 題 「オリンピックの見方が変わる! なりたい自分になる生き方」

講 師 山口 香さん(筑波大学体育系教授、ソウル五輪女子柔道銅メダリスト、  
日本オリンピック委員会(IOC)理事)

## 第2部 パネルディスカッション

テ マ 「未来へつなげよう! みんなが挑戦できる社会をつくる」

パネリスト 内田信子さん(学校法人旭学園理事長、NPO法人女性参画研究会・さが副理事長)

片桐 亮さん(いまパパ.代表)

宮崎美由紀さん(みやき町女子サッカー推進室参事、一般社団法人佐賀県サッカー協会副会長)

助 言 者 山口 香さん

コーディネーター 上野 景三さん(アバンセ事業統括)

主催: 佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)  
佐賀市

## ❖講演

講師の山口香さんはオンラインで登壇され、女性スポーツの歴史、自分が柔道を始めたきっかけ、女子柔道の歩みなどを紹介し、当時、男性中心社会であった柔道界やスポーツ界で活動してきて気づいたことを基に、男女共同参画社会の実現のために私たちがなすべきことを提言されました。

山口さんは15歳で世界選手権に出場して銀メダルを獲得し、世界チャンピオンを目指す決心をされたそうです。その理由は“勝つ”ことが女子柔道を認めてもらうことにつながると考え、「女子柔道を背負って頑張る」という山口さんの決意でした。世界では依然として女性という理由で教育が受けられなかったり、スポーツをすることができなかったり、参政権がない国や地域があります。私たちは、女性も、障がい者も、高齢者もやりたいことに挑戦できる、夢をあきらめなくてよい社会を創っていくことが大切であると語られました。価値のない人間は一人もいないし、人にはみな価値がある。目標に高い低いもない。自分がやりたいことに取り組んでなりたい自分を目指すことが大切である。それが社会貢献であり、社会参画であるとも語られました。



## ❖パネルディスカッション

学校法人理事長でNPO法人女性参画研究会さかの副理事長でもあるパネリストの内田さんは、「女性だからできない」といった自己規制を自分の発想からなくすことで広げてきた活動を紹介。参加者へ「道を拓く」というメッセージを伝えられました。片桐さんは“いまパパ.”代表であり、育休を2度取得し、「父親の育児参加で未来の日本をつくる」をモットーに、「パパが知る、ふれあう、伝える」活動を行われています。情報交換だけでなく、ママも笑顔で楽しめるような企画を実施。当たり前前に感謝するという意味を込め、「ありがとうを忘れない」というメッセージを伝えられました。宮崎さんは、サッカーは男子のスポーツと言われていた時代に、男女関係なく生涯スポーツの一つとして女子にも広めたいという思いから、地域や学校でサッカーの普及に尽力。多くの人との出会いが自分を育ててくれたという経験から、「やりたいことを貫く-継続-」というメッセージを参加者に伝えられました。

**感想:** スポーツ界の出来事などを通して男女共同参画について改めて考えさせられました。社会的弱者である人たちが声を上げていける組織や社会を目指すことが大切だと感じました。  
(編集委員 椛島陽一郎)

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



## ジェンダーの平等を達成し すべての女性と女の子の エンパワーメントを図る



### ジェンダーギャップ指数120位!!って何?

2021年6月に公開された「世界のSDGs達成度ランキング」において日本は18位でしたが、厳しい評価を受けたのが「ジェンダー平等の実現」についてでした。

2021年3月に各国における男女格差を測る「ジェンダーギャップ指数」が発表されました。この指数は「政治」「経済」「教育」「健康」の4つの分野のデータから算出され、日本は先進国の中では最低レベルの120位。

アジア諸国の中でも韓国(102位)や中国(107位)、ASEAN諸国よりも低い結果となりました。上位の国と特に差があるのは、経済、政治の分野で、企業の女性管理職は14.7%、非正規労働者の割合は男性の2倍、女性の平均所得は男性の56%。国会議員の女性割合は9.9%で、人口の半分は女性にもかかわらず、女性の声が反映されにくい社会となっています。

これは、北京女性会議(1995年)後に、他国はクォータ制などの積極的是正措置を繰り入れたのに対して、日本は性差別をなくす政治的意思がないゆえに、制度や社会構造を変える意思決定の場に女性を増やすことができなかつたことによります。

また、日本では長年にわたって刷り込まれてきた性別役割分業意識などの「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」があり、私たちの意識変革も問われています。

ジェンダーの問題は、今の社会が抱えるさまざまな課題に通じています。世の中の変化に合わせてジェンダー平等に向けた努力を加速させましょう。  
(編集委員 草場 栄美)

※第4次佐賀市男女共同参画計画では、政治分野における女性活躍の推進を重点的に推進すべき取り組みの一つに掲げ、ダイバーシティ社会の実現をめざしています。

順位	国名・地域名	男女格差指数	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.9	-
2	フィンランド	0.9	1
3	ノルウェー	0.9	-1
4	ニュージーランド	0.8	2
5	スウェーデン	0.8	-1
119	アンゴラ	0.7	-1
<b>120</b>	<b>日本</b>	<b>0.7</b>	<b>1</b>
121	シエラレオネ	0.7	-10
154	イラク	0.5	-2
155	イエメン	0.5	-2
156	アフガニスタン	0.4	n/a

### 編集 後記

男女共同参画推進が言われて久しいですが、自然な行動となる『意識の変化』は簡単ではないと、多くの場面で実感します。「～ねばならない」の義務感ではなく「その方が楽しい」を実感されている場面に、今後も光を当てていけたらと思います。

編集委員 友安賀代子



編集  
委員

写真左から 矢ヶ部ひとみ・友安賀代子・  
草場栄美・花島陽一郎・松永光子

※編集委員は、市民の方にご協力いただいています。

発行  
お問い合わせ

佐賀市 人権・同和政策・男女参画課 (ほほえみ館2階)

TEL 0952-40-7014 FAX 0952-34-4549 E-mail jinken@city.saga.lg.jp

URL <http://www.city.saga.lg.jp/> (佐賀市HP)